

製品名: PPP1R14D ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16424**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	24kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP1R14D
別名	PPP1R14D; GBPI; Protein phosphatase 1 regulatory subunit 14D; Gastrointestinal and brain-specific PP1-inhibitory protein 1; GBPI-1
遺伝子 ID	54866.0
SwissProt ID	Q9NXH3
免疫原	抗血清はヒト PPP1R14D 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 66-115

背景

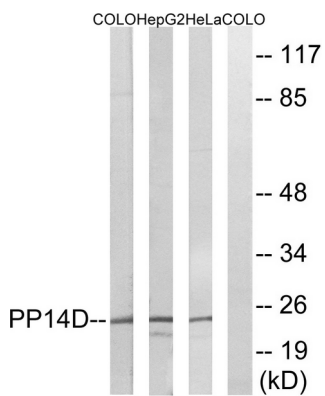
タンパク質ホスファターゼ 1 (PP1; MIM 176875 参照) は、セリン/スレオニンタンパク質のリン酸化を阻害する主要な細胞ホス

ファターゼです。PPP1R14D は PP1 阻害剤であり、それ自体がリン酸化によって制御されます (Liu et al., 2004 [PubMed 12974676])。[OMIM 提供、2010年2月],機能: PPP1CA 阻害剤。リン酸化時のみ阻害活性を示し、PPP1CA 基質のリン酸化状態と平滑筋収縮を制御する分子スイッチを形成します。、PTM: 複数の残基がリン酸化されています。、類似性: PP1 阻害剤ファミリーに属します。、組織特異性: 結腸、腸、腎臓、および脳皮質で検出されます。、

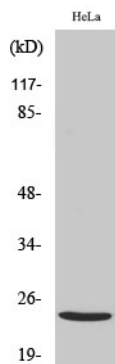
研究分野

-

画像データ



PPP1R14D 抗体を用いた HeLa 細胞、HepG2 細胞、および COLO 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PPP1R14D ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析